



KEIO MEDIA DESIGN

# FRONTIER

教育・研究の最前線

## イノベーターを育成するKMDの10年

メディアデザイン研究科委員長

稲蔭 正彦  
いなかげまさひこ

大学院メディアデザイン研究科（KMD）は、イノベーションを自ら生み出しグローバル社会に向けて価値を創出する能力を持つ「メディア・イノベーター」の育成をミッションとしています。ミッションを達成するために、KMDは3つ

の戦略的な判断を開設時に行いました。第1に、KMDコミュニティをグローバル化することが必須であると考え、日本語に加え英語も公用語としました。日本語を全く話せない留学生を世界中から受け入れ、現在は47%が留学生です。出身地域も欧州、北米、南米、中東、アジア、オセアニア、アフリカなど多様な文化圏から入学しています。

第2の戦略的判断は、複数の物理拠点を持つことです。グローバル時代の活動は、世界中に点在する優秀な人や組織と連携することが必須です。現在は、日吉キャンパスをヘッドクォーターとして、大阪シテイキャンパスや東京都内の拠点、そしてシンガポール国立大学との共同運営のKeio-NUS CUTTEセンターと名付けら

れた研究拠点を持っています。CUTTEセンターは、慶應義塾にとって初めての本格的な海外研究拠点として、拠点間をネットワーク回線で結び日常的に遠隔コラボレーションを実施しています。

第3の戦略的判断は、プロジェクト型の学びをカリキュラムのコアに位置付けている点です。リアルプロジェクトと呼ばれるプロジェクトのゴールは、研究論文を執筆することではなく、自らのアイデアを実社会に展開して社会的インパクト（social impact）のある社会貢献を目指します。また、起業するためのアントレプレナー養成にも力を入れています。

KMDは、これまでの10年間でシンガポール国立大学をはじめ、スタンフォード大学、英国のロイヤルカレッジオブアート（RCA）、米国のプラット・インスティテュートなどのトップスクールと提携して共同プログラムを実施しており、真のグローバル環境を確立しました。KMDの次の10年にご期待ください。